

は行っておりません。今後は、施設の老朽化の状況等の把握に努めながら、財政的な対応について検討をしていきたいというふうに考えております。それとまた、この更新に対する補助等も調べておりますけども、事業を経過から7年以上経過しますと、漁業集落排水事業の補助事業が適用もされるというようなことも聞いておりますので、こら辺の事業を活用しながら対応策を練っていききたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（堀江 政武君） 9番、長信義君。

○議員（9番 長 信義君） 先ほどから言いますように、この水道事業の問題につきましては、この一般質問の通告をした後に、こういった水道事業の経営戦略プランというのをいただきまして、非常にこれだったらもう質問せんでもいいのかなと思うぐらいに何も資料いただいております。

しかしながら、今申し上げますように、いずれの上水道、簡易水道、ともにもう既に耐用年数を経過し、老朽化しておるということはやっぱり事実でございますので、やはりしっかりとした改良計画をもって整備をしていただきたいというふうに思います。

それから、最後になりますが、市長が就任されて、もう1年になります。私どもも市長を支援した立場から申しますと、1年間は大変だろうなというふうに思っておりましたが、思った以上に市長が市長職をしっかりとこなしておるなど、これは私の個人的な感想ですけども、そのような印象を持っております。私どもは、あと2カ月余りで任期が切れますので、また市長とお会いすることができるかどうかはわかりませんが、しっかりと市民のために研さんをしていただいて頑張っていたいただきたいというふうをお願いをいたしまして、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（堀江 政武君） これで、長信義君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 暫時休憩します。再開は、11時5分からとします。

午前10時48分休憩

午前11時03分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。

12番、齋藤久光君。

○議員（12番 齋藤 久光君） 皆さん、おはようございます。会派つしま代表の12番、齋藤久光です。どうぞよろしくお願いを申し上げます。本日の一般質問の機会をいただきましてありがとうございます。

さて、対馬市も合併から10年が過ぎ、3代目の市長、比田勝市政誕生から早1年が過ぎようとしております。今日、対馬市の基幹産業である農林水産業の衰退による人口減少が、何よりも大きな課題であると考えております。そのような中において、島民の悲願であった有人国境離島地域の保全と地域社会の維持に関する特別措置法、「有人国境離島法」が成立したことは、島民の大きな喜びであります。早速4月1日より航路の低廉化が始まる予定になっておりますが、対馬市もこの機をチャンスと捉え、大きく変わっていこうとしております。行政、議会、市民が大きく一つになって再生への道を進んでいくことが求められていると思います。

そこで今回は、対馬地域の農林水産業の後継者となる若者が安心して対馬に定住できる環境づくりを重点施策として取り組んでいくと、力強く市長は施政方針で述べられました。大変心強く思った次第でございます。

また、新法においても、農林水産分野における特定有人国境離島の地域社会の維持に向けた取り組み、1次産業の雇用機会の拡充等に資する事業の活用促進等々と支援策が盛り込まれております。対馬市長の今後の取り組み、考えについて、今回は質問をさせていただきたいと思っております。

質問の本題に入りたいと思います。今回は、地域の農林水産業の再生に向けて、雇用、人口対策についての質問であります。農業振興対策については、この冷え切った、そして高齢化していく地域について、その現況と言えば、対馬の農業は中山間地域で小規模経営が大半であります。そのような中で、雇用の拡大、そして後継者の育成がどのようにして図られているかということをお聞きしてみたいと思っております。そして、その方法としても、各地域に新たな法人をもって、法人の設立によって地域の再生が図れないか、提案を含めて市長と議論を交わしてみたいと思っております。

また、農業の、これは水産業も含めますけれども、6次産業化の推進で後継者やその就農対策につながっていくのではないかとということについて、市長はどのようなお考えをお持ちなのか、お伺いをいたします。

次に、林業振興について、森林の保全管理拡充等によって雇用対策につながっていないのかが1点、もう一つは、森林の環境整備、これは大変、御承知のように、対馬の90%近くが山林でありますけれども、ほとんどが人工造林をのけて、手つかずの状況であり、非常にイノシシ・鹿で、もう大変な状況になっているというようなことを含めて、その森林環境整備と林地整備拡充によって若者の雇用がそこで生まれぬのか、そのようなことを議論をしてみたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

次にあげているのが、水産業の振興でございます。水産業振興について、ここに多面的な機能対策について御紹介をしていただきたいと思います。

次が、各地域に水産業が非常に衰退をしている現況の中で、資源が非常に少なく減少しているような状況の中で、水産資源の加工業、加工施設を整備していくことによって、各地域において、その活性化につなげていけないのか、そういうことも含めて提案をしながら、市長の御意見をお伺いしていきたいと思っております。

それに関連して、資源回復への藻場の整備については、先般、質問もございましたので重複するところもあるかと思いますが、取り組み状況について、市民が納得できるような、そのような答弁をお願いをしていただきたいと思いますと思っております。

次に、大きく2番目に、対馬全域による防犯カメラの設置整備計画についてということであげておりますが、これは御承知のように、先般、対馬、このような田舎の島であってはならない大きな事件が起きました。しかしながら、もう年を越えて今日に至っても、まだ解決ができていない、このような状況を踏まえて、対馬全島、180もある集落があるわけでございますが、そのような集落、入り口・出口の防犯設置、これは今我々対馬市が交流人口の拡大も図り、非常に交流人口が増大している中で、これからの時代に合ったその防犯整備施設が必要不可欠なことだろうと、そのようなことを考えたときに、ぜひ整備が必要になってこようかと思っておりますので、このことについて御質問をしてみたいと思っております。

以上でございますが、あとは一問一答でお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 齋藤議員の御質問にお答えいたします。

初めに、農業振興対策についての1点目の、各地域による新たな法人設立で地域の再生ができないかということでございますけれども、対馬市におきましては、高齢者や後継者のいない農家は離農していくという慢性的な問題を抱えており、耕作放棄地が増えていくことが危惧されているところでございます。

そのため、市といたしましても、農地中間管理機構による農地集積推進員を2名設置し、これまで130ヘクタールの農地の利用希望者と地権者のマッチングを支援し、耕作放棄地の解消に努めているところでございます。

新たな法人を設立し、地域の再生ができないかという質問でございますけれども、法人経営には、簿記会計や法人税などの新たな経費が発生し、また安定した収益が求められるなど、さまざまなリスクが存在します。平成27年に、地区主導によりまして、農事組合法人檜椎小原が設立されたように、農地の集積やしっかりとした事業計画と資金計画が立てられ、リーダー的資質を持った存在があって初めて法人化が成り立つと考えています。安易な設立は、優良な農家がなくなることにつながりますので、慎重に検討しなければならないと考えています。

耕地面積の少ない集落におきましては法人経営は難しく、農地の維持と過剰な投資を防止するため、農業機械等を共同利用する集落営農での取り組みを推進してまいりたいと考えているところでございます。また、必要に応じて、対馬市農業振興公社における受託作業等の機能強化も検討していきたいというふうに考えております。

続きまして、農業振興対策についての2点目の、6次産業化の推進でございますけども、本市におきましては、付加価値の高い農業経営を推進するため、農産物の生産、加工、販売が一体となった6次産業化への取り組みを支援しておりまして、セミナー、個別相談会、栽培技術の指導を、関係機関とともに取り組んでいるところでございます。既に何種類も商品化されていますけども、本年度、フードクラスター協議会が設立され、島外での加工業者とのマッチングに取り組むなど、今後も新たな可能性を探り、雇用の拡大と生産者の所得向上につなげてまいりたいと考えております。

続きまして、林業振興対策の1点目、森林の保全管理拡充による雇用対策についてでございます。

近年、鹿による山林の荒廃が問題となっており、海への影響も懸念されているところでございます。萌芽更新や天然下種更新の際には、鹿の食害防除のための防鹿ネットに対する県の補助事業がありますけども、生産者の負担が大きいことから対策が進んでいない状況にあります。森・川・里・海環境保全再生基金、現在約2,700万円ほどありますけども、これによる上乗せ助成をすることで負担を軽減し、被害の減少が図れないか、森づくり委員会に諮問をしたいというふうに考えております。

続きまして、2点目の森林環境整備と林道整備拡充による若者の雇用対策についてでございます。

本市の人工林は約2万ヘクタールで、そのうち主伐可能な9齢級以上のものは73%を占め、林齢の平準化を図る上からも主伐が求められているところでございます。また、倍增協議会対馬部会におきましては、素材生産量が現在の5万立米から32年度には9万立米まで大幅に伸びるなど、林業においては人手不足が懸念されております。

本市といたしましても、担い手不足の解消を図るため、移住サポートセンターによる移住相談会、合同企業面談会に企業側とともに積極的に参加し、担い手の確保に努めているところでございます。

今後におきましても、これまでの移住相談会に加え、インターンシップによる新規就業者の確保に努めるとともに、新規正規雇用就職者人材育成補助や林業の星スキルアップ研修事業による資格取得の経費補助等を引き続き行い、対馬の林業の活性化につなげてまいりたいと考えております。

次に、水産業の振興対策についてでございますけども、1点目の多面的な機能対策につきまして、水産業及び漁業集落は、安全で新鮮な水産物を安定的に提供する役割に加え、藻場、干潟等の保全や国境監視、海難救助、交流・教育の場などの多面的機能を提供する役割を担っていることから、漁業集落の活力を維持発展していくためにも、水産多面的機能発揮対策事業により地域の活動を支援しているものでございます。

平成27年度は、3地区の藻場保全組織による海藻の種苗投入、岩盤清掃、食害生物の駆除、モニタリング、保護区域の設定などの活動に取り組まれております。本年度は、これに加えて1地区、鴨居瀬が加わり、4地区が藻場保全活動を継続して取り組まれるとともに、海難救助訓練や藻場の重要性につきましても、地元小学生などを現地に招き、活動内容を紹介する教育学習も実施されています。環境、生態系の維持回復や安心して活動できる海域の確保など、漁業者等が行う多面的機能の発揮に資する地域の取り組みを支援することによりまして、水産業の再生、漁業集落の活性化を図るものでございます。

2点目の、各地域に水産資源の加工施設の整備についてでございますが、平成29年度から施行されます有人国境離島法による離島漁業再生支援交付金関係の事業の拡充といたしまして、特定有人国境離島漁村支援交付金が創設されております。事業内容は、漁業集落が雇用を創出するための取り組みに合わせ、これを円滑に行うための環境整備についても支援を行うことができるように拡充されております。

具体的には、地域の水産物を利用した水産物の直売所や水産加工施設など、新たに開設した場合に要する経費を支援するものでございます。事業者は漁協、漁業集落、集落内のグループや集落外からの事業者も対象になります。

市といたしましても、各漁業集落が各地域の特性を生かして雇用の場を創出していただけるよう、漁協や漁業集落の代表者に対しまして説明会を開催し、周知に努めておりますので、各漁業集落におきまして、事業を有効に活用していただきたいと考えております。

3点目の資源回復への藻場再生であります。小島議員に答弁しておりますので、重複する内容は割愛させていただきます。

現在、対馬沿岸では、磯焼けによる藻場の衰退が顕在化し、深刻な問題となっております。現在の取り組みといたしましては、離島漁業再生支援交付金において、島内37の漁業集落と漁業の再生の取り組みを行うための協定を結び、種苗放流、漁場の管理改善、産卵場の整備等の支援、そして、先ほど御説明させていただきました水産多面的機能発揮対策交付金による支援等を行っております。

平成29年度には、島内12漁協37漁業集落の皆様にご協力をいただき、離島漁業再生支援交付金や水産多面的機能発揮対策交付金を活用して、イスズミやアイゴ等の藻食性魚類の一斉駆

除にも取り組むように計画しております。

中長期的な対策といたしましては、対馬市海洋保護区設定推進協議会の下部組織として、磯資源作業部会と藻場再生作業部会を設置しておりますので、本部会の中で藻場再生対策等に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

最後に、防犯カメラの設置等についてでございますけども、上野議員からの質問に答弁させていただいておりますので、重複する部分は省略させていただき、整備計画に関する方向性につきまして答弁申し上げます。

御承知のとおり、市内におきましては、韓国からの旅行者数も年々増加の一途であり、レンタカー利用も増え、市民を巻き込んだ交通事故のリスクも高まっていることも認識しているところでございます。また、報道に上らない盗難等の軽犯罪は後を絶たないとも聞いております。犯罪の抑止という観点から、安全安心のまちづくりの実現のため、長崎県警や道路管理者に対し、対馬の現状を御理解いただくとともに、設置に向けた積極的な取り組みをいただくよう働きかけてまいる所存でありますので、市における整備計画の策定は、現在はございません。

以上でございます。

○議長（堀江 政武君） 12番、齋藤久光君。

○議員（12番 齋藤 久光君） 今、全般について、質問の御回答をいただきましてありがとうございます。大変難しい問題もあると思います。そのような中で、1点目から1つずつ整理をしていってみたいと思いますが。

大変冷え切った、この農業分野について、各集落がこのままでいけば、高齢化の状況は続き、5年、10年の先を見据えたときに、大変な放棄地が生まれるんじゃないかというような心配がよぎるわけでございます。

そのような中で、先ほども私が提案をした法人化で何とか地域を再生できないかということでございますが、大変条件的に厳しいという市長の答弁でもございました。しかしながら、この高齢化していく中に、このままではどうしようもない、そこに各地域に新しいリーダーの育成、この人づくりが全てだろうと私は思います。若い後継者を育てていくという、そこに今回、新法の中でもうたい込んでおられます雇用の創出、その後継者の育成という大きな問題もあろうかと思っておりますけれども、そのような事業が盛り込まれていると。

そのようなものを利用していただいて、若者のリーダーづくり、それによってその法人化も、数名の地域に新しいリーダーが生まれ、しっかりと勉強、研究していただいて、その地域を引っ張っていくというような、そういうシステムづくり、それにはどうしても法人化が一番必要な、私はことだろうということを、常に今まで各地域を回りながら感じているところでございます。新規就農者につながることになるんじゃないかならうかなと。

先般の新年度の審査の中でも、数名の方がその新規就農に名前が数名挙がっているということでございますので、そのような中で、地域づくり、島づくりには、どうしても人づくりでないと、その地域の再生は難しくなっていくだろうというような思いがしておりますので、ぜひそれにつけても再度検討していただきたいということをお願いをしていきたいと思っております。

その中で、今対馬市の基幹産業である農業の中で和牛の問題、これが以前は、かなり各集落の収入の源であった。それが今、悲しいかな、もう二、三百頭に減ってしまいました。

しかし、今、市長も御存じだと思いますが、市場の情報では、1頭が子牛生産で70万から80万、これをずっと維持をしております。このようなことは、いまだかつてあったことはございません。私も、若いころから、17歳から議会に入るまで、平成14年まで、30頭から50頭の牛飼いをしておりました。そのような中で、今回、非常に高価な子牛販売価格となっております。これは私は、産地づくりの一つのチャンスではないかなということで、新規就農者も何人かいらっしゃると思いますが、そのような方々を中心にして、地域が今まで個人個人の、もう生産では稲作農家もやっていけません。もう目に見えてるんです。そうすれば、そこに一つの若者リーダーが畜産を仮にやるとしたとき、全体の集落が一緒になって、その稲作と和牛生産に、そういう組織づくりと申しますか、そういうことが、これからはぜひ必要なことになってこよかなということを考えておりますので、ひとつ、これについても市のほうもしっかりと担当部局で研究をしていただきたいということをお願いをしておきたいと思いますが、市長、そのことについては、何かありましたら。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私も、先ほど答弁いたしましたけども、決してこの法人化を否定するものではございません。ただ、なかなか齋藤議員さんおっしゃられるように、その地域のリーダーの確保というのが、なかなか難しい問題であろうかというふうに思っております。

そういう中で、この4月から施行されます有人国境離島法による雇用の拡大、この中で、先ほども申されましたように、今対馬では、子牛の価格が70万から80万程度しているということで、この和牛生産と農業、林業を組み合わせた新しい経営体を育成していければなというふうに考えているところでございます。

このことにつきましては、また、この有人国境離島法の事業の中でも取り組みが可能でございますので、そういう希望の方がいらっしゃれば、ぜひお手伝いをしたい、また、ぜひそういうことに取り組んでいただきたいというふうに思っております。あわせて、このことがまた、行く行く齋藤議員さんおっしゃられたように、6次産業化へも結びついていくものだというふうに考えているところでございます。

○議長（堀江 政武君） 12番、齋藤久光君。

○議員（12番 齋藤 久光君） ありがとうございます。この法人化については、ひとつよろしく、また御検討をしていただきたいと考えております。

次に、6次産業化について、この推進で後継者や雇用の拡大につなげられないかという点でございますが、先ほども申しましたように、大変厳しい農村の今、生活体系でございますけれども、この対馬市も、韓国からの観光客の増大によって、今非常に対馬市もある意味、経済的には活気づいていると私は思っております。それが交流人口の拡大によって、いろんな面で島内の消費、地産地消というのを拡大によって、農業者もそこにかすかな光を見出しているところでございます。新鮮で豊かな農産品の食材を地元を提供するという、その島内供給システムと申しますか、そのようなものがこれから大きな課題として挙がってくるんじゃないかなど。交流人口を拡大していくということによって、もうあの農家に今勧められておる農家民泊、民宿民泊等が交流人口の拡大によって、それが拡大していくことによって、農家に新たなその活性化が生まれているというのは、もう現在、始まっているところでございます。

そのような中で、農産加工場、これも先ほども市長も申されましたけれども、法人が難しいのであれば、集落営農というような形でもって農産品の加工場、これを整備していくことによって、整備してやることによって、集落間の活性が生まれてくる、それがいわゆる雇用にもつながり、後継者にもつながっていくというようなことを日ごろ私も体感しながら味わっているところでございます。ぜひこの6次産業化というのは、これからの対馬の農林水産業を担っていく上において、必要不可欠な問題だろうと考えますが、市長、いかがでしょうか。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 6次産業化については、これはまさしく今後必要であろうというふうに思っておりますし、今、対馬市のほうでは、この地域商社のほうも今計画をしておりますけれども、当面は豊玉の振興公社の拡大ということでの出発でございますので、水産方面が中心になろうかと思っております。ただ、農協とか森林組合とか、こういったところにも一緒に加入していただいて、この事業を広めていきたいというふうにも考えておりますので。ひいては、この農業関係、そしてまた林業関係のほうにもそういったところでお手伝いできる場所があれば、ともにやっていきたいというふうに思っております。

○議長（堀江 政武君） 12番、齋藤久光君。

○議員（12番 齋藤 久光君） 大変、希望のある答弁をいただいております。今、地域商社のことが挙げられましたので、順番をかえて水産業のほうを質問してみたいと思います。

多面的な機能については、先ほど答弁の中でございましたので、ぜひそれを続けていただきたいと思いますということでございます。よろしく願いしときます。



2番目の、地域の水産資源の加工施設整備で、漁村の活性化が図れないのかということを提案をしたわけでございますが、市長の答弁の中でもありましたように、今対馬市が対馬地域商社ということで、豊玉振興公社の加工施設が地域商社として改善計画をされてしまろうとしております。

そのような中において、今私が提案をいたしました地域においてそのような加工施設をつくることによって、連携をしながら、販売からその仕入れから、それぞれ地域商社としては中央の豊玉につくられるわけでございます。そこが拠点となって、国内外に向けて、これからは発信をされていくという計画でございます。大変私も、これには期待を持っております。

そのような中で、連携をしながら各地域にもそのようなものがあってもいいじゃないかと。南に1カ所、また北部に1カ所、その加工施設と中央の商社と連携をしていけば、かなりの水産資源の事業が展開できていくのではないかという思いがしております。小さな集落でつくっていくということも大変厳しい、何か所かはございますね、対馬も。そのようなところも一緒に連携をすることで、商社もしっかりとした連携ができることによって、大きく反映していくんじゃないかなという思いがしておりますので、これまでの概念は捨てて、新たなやっばし、道を探り、つくり込んでいくことが、今市民のこの厳しい漁村の活性化につなげていけることにつながるのではないかということを、私はここで強く市長にも申し上げて、しっかりとした振興施策をつくり込んでもらいたいということを考えておりますが、市長、いかがでございましょうか。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほどの答弁の中でも若干触れさせていただきましたけれども、今回、特定有人国境離島漁業再生支援交付金というのが創設されます。この中で、各漁業地域が一緒になって行うということであれば、例えば水産物の直売、そして漁家の民宿、それから体験漁業、釣り等と一緒に集落でやるとなれば、助成といたしまして、年間600万ほどの助成が準備をされているみたいでございます。

それとまたそのほかに、漁業集落でのカフェとか、そういったところをやるということであれば、年間150万の助成と、そういうのもありますので、ぜひここら辺にこの事業を活用していただきながら、議員さんがおっしゃられます6次産業化とあわせてやっていただければいいなというふうに思っております。

そしてまた、先ほども申しましたように、それがある程度連携できれば、市の地域商社のほうとも連携が可能になるかというふうに思います。

○議長（堀江 政武君） 12番、齋藤久光君。

○議員（12番 齋藤 久光君） 全く市長の申されるとおりだと思います。ぜひこのことについても、しっかりと担当部局の方々が勉強され、研究していただきたいということをお願いしてお

きたいと思います。

水産業については、大変申しおくれましたけれども、大変今大きな問題を抱えておるのが現況であると思います。特に、このクロマグロの問題については、もう先般から数名の同僚議員の質問で、内容については、もうわかっております。

そのような中で、ひとつ私は、強く市長に申し上げたいというのは、この対馬の国境、今国境離島で新法が制定されたわけでございますけれども、島を守ると、誰が守っているのかと。この海洋地域を守っていただいているのは漁民なんです。漁船なんです。あれだけ多くいた、各整備された漁村の港の中に、すっかりと船がいなくなっております。非常に寂しいことです。今残っている一本釣り漁に出かけられているこの船団こそ、我が対馬を守っている唯一の船団だと私は考えております。これを保護しないで、どうしてこの対馬を守れるのか。ぜひこの漁船船団の今後の運営、経営に、何とかこの新法でもって下支えができないかということ、その立場で国境を守っている船団ということで、何かそこに国からの支援策等々があるかと思っておりますので、研究されて、ぜひ支援をしていただき、何とかその国境を守り続けていってほしいということをお願いをしておきたいと思っております。

それでは、時間も大分迫ってきましたので次に入りたいと思っております。林業の件についてでございますが、森林保全管理拡充によって雇用対策ができないかということと、森林環境整備と林道整備拡充で若者の雇用創出をということで御答弁もいただきました。市長の答弁のとおりだとは思いますが、しかし、この広い対馬の林野を見たときには、約9割近くが対馬の山でございます。その中の三十数%ぐらいが人工造林かと思っております。あとの森林は、常緑樹、広葉樹を含め、雑林、これが今どういう状況かといいますと、鹿、イノシシの被害によって、下層植物はほとんど食べられて、山の頂上から下まで、もう地肌がすっかり出ておる状況で、俗にいう砂漠みたいなもんです。緑の砂漠です。

上から飛行機から眺めれば、きれいな緑の島できれいですけれども、実際の中に入れば、もうそのような状況で、これで生態系が狂わないわけがないと私は一番危惧しているんです。小動物は、全く生息できない。そのような生態系が狂いますと、この山の恵みが山の幸となって海に流れ込み、そしてそこでプランクトンが発生をし、小魚がそこで成長し、大きな魚を呼び込むという、この循環が消えてしまうわけです。断ち切られるんです。これは、島において、一番大きな損失、損害となっていくわけでございます。全てのものに影響してくるんです。その環境を元に戻すために、どうしていけばいいのかというのは、我々が知恵を出さなければできないことだろうと思っております。

そこで、私が提案と申しますか、その奥地にまで林道を開設をするということ、これだけ大きな対馬市の財産の、そこに林道開設ができないかということなんですけれども、それを一つの、

これまで何十年間の間、対馬が発展したのも公共施設、公共工事によって、対馬の人口、五、六万からあった人口が、現在に3万人をやがて切ろうかというような状況につながっておるわけですが、これも公共事業のおかげであったと思います。そういう時代もありました。それを私の提案であります、奥地まで林道を開設することによって、環境の再生、それとイノシシ・鹿の対策、それにも大きく影響をしてくるわけでございます。そのようなことを考えたときに、ぜひこれも検討していただきたいということをお願いしたいと思いますが、市長のお考えをお聞かせください。

○議長（堀江 政武君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この対馬の植生関係につきましては、今議員さんおっしゃられるように、大変、この鹿・イノシシの関係で植生草が荒れているということは認識しているところでございます。

こういうことからいたしましても、この有害鳥獣対策と合わせながら、その対策をしていくことが重要ではないかというふうに思っているところでございます。

また、林道の整備関係につきましては、今、計画しているのが、林業専用道が3路線、延長6.8メートルでございます。これは整備中です。そしてまた、平成29年度より新規路線といたしまして、森林施業道1路線0.6メートルを整備する予定となっております、毎年1路線から2路線程度を事業化して、林道網の整備を図りながら、効率的な森林施業ができるように努めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

○議長（堀江 政武君） 12番、齋藤久光君。

○議員（12番 齋藤 久光君） 時間も来ました。大変前向きな御答弁でございますけれども、ぜひこのことについても御検討をしていただいて、これからのその島づくりをどのようにしていくかということ、ひとつお願いをしたいと思います。

市長が施政演説でも話しておられるように、循環の島、宝の島づくりに向けて、しっかりと島づくりをやっていくんだということでございますので、ぜひ人口問題が何よりも大きな課題と思います。ぜひこの交流人口を拡大することによって、対馬の再生を、役所と議会が一体となって、またそれに市民一体となつてつくり上げていくということが、非常にこれからの対馬の発展につながるんじゃないかなということをお願いをいたしまして、私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（堀江 政武君） これで、齋藤久光君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 昼食休憩とします。午後は1時から再開します。

午前11時55分休憩